



**福井県版**  
 治安維持法犠牲者  
 国家賠償要求同盟  
 福井県本部  
 〒918-8203  
 福井市上北野29-15  
 ☎0776-76-0836

# まるで今の自民党政治

## 宇野重吉生誕一一〇年映画上映会を開催

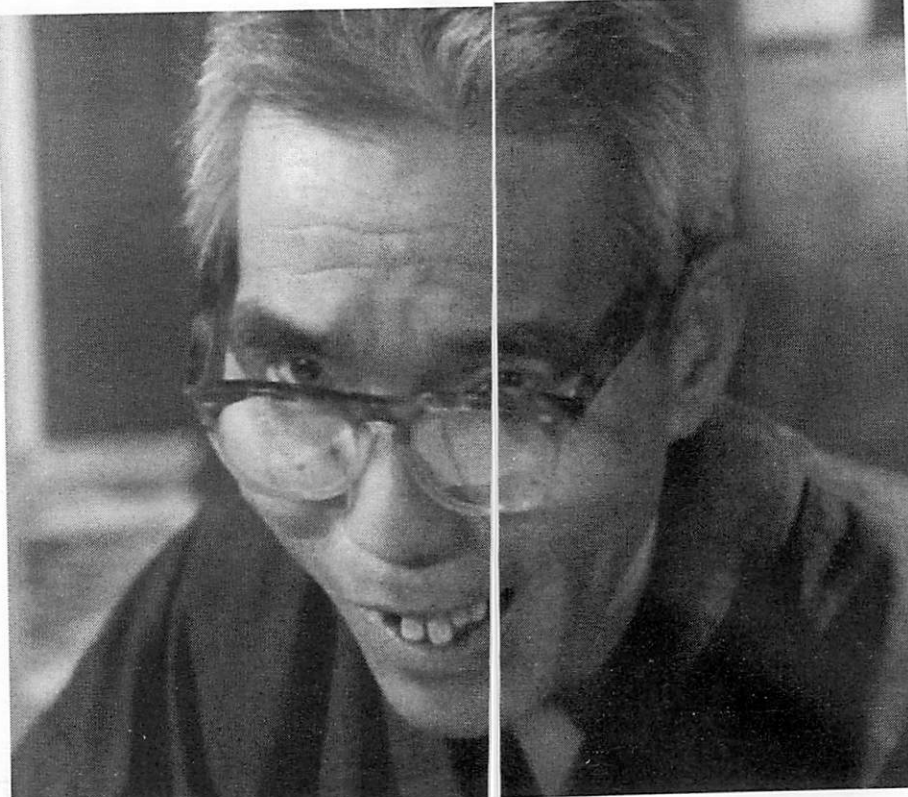
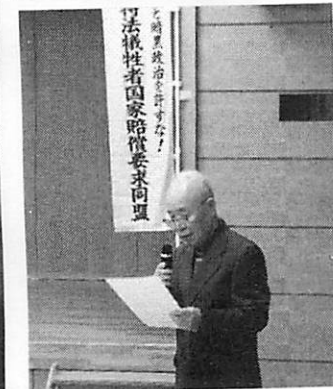
三月一七日、県教育センターにおいて、宇野重吉生誕一一〇年を記念して、映画「金環蝕」の上映会を開催し、54名が参加しました。

村井会長はあいさつで、宇野重吉さんが戦前、治安維持法によって2回特高警察に検挙されていることにふれ、その理由について「同じ演劇人の米倉齊加年(まさかね)さんが自著『いま、普通に生きる』のなかで、『私たちの新劇の先達も治安維持法によって獄中につながれた。理由は戦争に反対し、平和な自由な社会を標榜したからだ。普通の生活を望むことが国家に反逆することになるのだ』と書いています」と紹介しました。そのうえで、「私たち同盟は、あのような自由も民主主義もない治安維持法体制の復活を許さないために活動しています」と訴えました。

映画は、二時間半余りでしたが、社会派エンタテインメント映画の巨匠と言われる山本薩夫監督だけあって、観るものを惹きつけ長きを感じさせませんでした。

出演者も、宇野重吉を始め、仲代達矢、三國連太郎、西村晃、高橋悦史、大滝秀司、京マチ子、中村玉緒などそうそうたるメンバーで、懐かしくも見応えがありました。

「映画は真実を伝える眼であり、政治や社会の不正を批判し、本当に大衆の幸福を願うものでありたい」という山本監督の思いが伝わる作品で、半世紀近くなった今も変わらぬ金権腐敗の自民党政治を一刻も早く終わらせなければと感じさせられました。



映画「金環蝕」を見て

山本貴美子

敦賀から3人で参加しました。

一九七五年の映画で、九頭竜川ダム汚職事件をモデルに、保守政党の総裁選挙に端を発した汚職事件を描いたものです。

総裁選挙で投票しながら、「あんだ、いくらもらった?」と嬉しそうに話す国会議員。ウツで建設業者から多額の献金をもらい、女と欲に溺れるドロドロの政治…

「金環蝕」は、外側はきらびやかに見えるけど、中身は真っ黒に腐っている、という比喩だとか。

とても昔の映画とは思えないくらい、今の自民党政治を見ているかのようでした。

帰りの車の中で、今の自民党政治とまったく同じだと、話し合いながら帰りました。

## 憲法を守り育てる集会

◇5月3日(金)午後2時~4時

◇アオツサ8階ホール \*参加費 800円

講演

### 食と農から考える 憲法9条

東京大学大学院特任教授 鈴木宣弘氏

署名集約 個人 445筆 団体 40筆(3月末時点)  
 国会請願 5月15日(水)に向けて  
 さらに署名の上積みに御協力を!